

當面の米軍師團と連絡せる所ありしが呂宋方面米軍最高指揮官と
會見の爲八月三十一日方面軍司令官は軍參謀長以下を隨行しキヤ
ンガンを経て爾後米軍自動車に依りバギオに到り九月三日同地に
於て停戦協定に調印せり

2 方面軍は停戦協定に基き九月六日方面軍命令を下達し九月八日乃
至十月上旬の間に於て概ね右命令に基く行動を終了せり

第八節 米軍バガバツク平地侵入後に於ける第十、

第百三師團及第四飛行師團等の概況

六月上旬米軍のバガバツク平地侵入に伴ひ方面軍司令部と第十、第百
三師團及第四飛行師團等との連絡は遮斷せられたり之が爲各種の手段
を盡し之との連絡掌握に努めたるも各兵團に於ける電池の不足衰弱等
の爲無線の連絡亦杜絶するに至り停戦後に於て知得せる概況左の如し
一 第十師團の状況

第十師團は六月上旬バンバン地區敵に突破せられたる後に於てもド

バックス南方の山地に在りて米軍の側背を攻撃する爲一部の敵と交戦中なりしがアリタオ方面よりの補給を遮断せられたるを以て糧秣極度に缺乏しドバックス東方のママヤン、ピノン附近に糧秣の収集を策したるも遂に意の如くならず先づ主力を以てカシブ附近に集結後圖を策するに決し六月中旬より逐次左記兵力を同地附近に集結せ

左記

第十師團司令部歩兵第十聯隊、工兵第十聯隊、輕重兵第十聯隊、師團通信隊、第一野戰病院小切間、楠田、高橋部隊（後者三部隊は兵站にて編成せるもの）にして其の兵力概ね一五〇〇なり

又徳永支隊（新に歩兵第六十三聯隊、野砲兵第十聯隊等を屬す）をカシブ南方を経てピナバガン方面に轉進せしめたり

右集結及轉進間極度の疲労と栄養失調の爲兵員の損耗續出し其の程度は戦闘に比し大なるものあり

カシフ附近に在りし師團主力は八月二日に至るヤドバツクス及バンバン方面より前進し來れる敵の爲二方面より攻撃を受くるに至り再びピナバガン方面に轉進するの止むを得ざる状態に至り八月七日河地發募兵を以て二十七日ピナバガンに到着且徳永支隊等を掌握し先づ戦力の恢復を期し後鬪を策するに決せり

師團は八月二十七日ピナバガンに於て停戦せることを承知し爾後當面の米第三十七師團と連絡し九月中旬エチアゲに於て停戦に關する行動を終了せり

八月末に於ける第十師團本屬の生存者は一千に足らず一月上旬に於ける師團の兵力は約一萬參千其の後の補充員を加ふれば約一萬七千にして殘存するもの計約二千なり

二 第百三師團の状況

ノ第百三師團は五月下旬カヤワン附近に歩兵を主體とする主力を集結し得たるも砲兵及輜重の大部等は降雨に依る道路の不良と敵機

及敵匪の妨害等の爲幾多の困難に遭遇し尙ツゲガラオ附近に在りて追及中なり

然るに五月末に至り「速かにエチアゲ西方オリオリ峠附近の要線に前進し同地を占領して軍主力のバガバツク平地に於ける作戦を容易ならしめ止むを得ざるもマガット河北岸に轉進し得る如く準備すべき」軍命令を受領し六月上旬數梯團となりてカワヤンーヒノマルノルテーオスカリスーサンチャゴ道をオリオリ峠に向ひ急進せり

六月十一日第一梯團たる獨立歩兵第一七九大隊はオリオリ峠に於て米第三十七師團の先頭と遭遇するに至り師團長は逐次到着する部隊をして本道兩側を占領せしめ數次に及ぶ敵攻撃を盡く撃退せり

十三日朝に至り「第四飛行師團を除くカワヤン平地所在部隊を併せ指揮すべき」軍命令を受領し第百五師團の牟田大隊、兵站の藤澤部

隊等を掌握に努めたるも十四日優勢なる敵の爲遂にオリオン峠を突破せられ同日夕サンチャゴにありし師團司令部も亦敵の爲包圍せらるるに至れり師團司令部は同夜敵の包圍を突破しサンチャゴ西北方に脱出し所在の兵力（1751Bs 1791Bs DA DFL 等）を掌握しつゝ幾多の困難を冒し七月初旬アルミット川合流點下流に於てマガット河を渡河し一時約一千名の部隊を收容掌握し不毛の山地を七月下旬漸くマヨヤオ附近に進出せるも集結兵力二百餘に減ずるに至れり當時同地に進出し來れる數百の米比軍と戦闘を惹起したるも偶々附近に於て第四飛行師團司令部、第百五師團の牟田大隊も亦敵と交戦中なるを知り敵の背後を攻撃すべく連絡する所ありしが同部隊との連絡ならず又軍主力方面に於けるキャンガン附近の砲聲も逐次西方に移動するを知りナトニン附近に進出して後圖を策するに決し九月六日同地に進出せしが翌七日に至り陸軍臨時歩兵團司令部ナトニン北方約十六軒のシーフ河谷に、又第四飛行師團司令部

令部は八月下旬ナトニンを出發ポイントツク方面に轉進せるを知り之等と連絡の結果九月十日に至り停戦に關する情報及方面軍の停戦命令を承知するに至れり當時師團司令部の掌握せる兵力は約二百なり

之湯口支隊は師團主力のカクヤン方面轉進後にアバリ附近の防備に任じありしが五月下旬以來カクヤン河左岸の敵匪次第に増加し攻勢に轉し來りしを以て之を掃蕩せり六月十三日に至り支隊はツゲガラオ附近に至り敵の同地飛行場の使用を妨害し止むを得ざるも附近の山地に據りて遊撃戦を遂行すべき師團島令を受領し主力をして直接ツゲガラオ飛行場を占領し支隊主力をバガオ南側地區に集結して任務達成に努む又直接作戦に關係なき航空及海軍部隊等をしてクマオ（ドモン川上流）に前進せしめたり

ツゲガラオ守備隊は六月二十一日より有力なる米比軍の攻撃を受くるに至り附近の航空部隊等を併せ指揮し二十三日に至るまで之

を反撃し多大の戦果を挙げたるも更に南方より有力なる米軍増援
し來れるを以て支隊命令により二十四日守備を撤しベニヤブラン
カ及イギグ東方高地を経てダラヤ東方高地に據り爾後の遊撃に任
ず

支隊主力(中) DA 基幹)は六月中旬ラロ附近を撤し二十三日サ

1801Bs
1中

ンホセ附近に陣地を占領し二十六日以来戦車を伴ふ米軍數百の攻
撃を受くるに至れり敵は逐次バガオに進入し七月十一日遂にサン
ホセ隘路口を突破し該地を占領して爾後専ら砲撃戦を實施せり
バガオ附近の戦闘に於ては敵戦車擱坐三、自動貨車七、火砲破壊二
人員殺傷約二〇〇の戦果を挙げたり
敵のサンホセ侵入後支隊はインタール附近を根據地として遊撃に轉
じ停戦を迎ふるに至れり當面の米軍は第三十七師團なりドモン川
上流に陣進せし海軍美濃部部隊長の指揮する患者及航空部隊の一
部は六月下旬クマオ附近に於て敵の砲撃を受けたるも大なる損

害なく豫定地區に至りて戦力恢復中停戦となれり
第六三礎泊場司令部はバトリナオ附近の部隊を併せ指揮し六月下旬ゴンサカ南方附近に於て米比軍の一部と交戦相世の戦果を擧げたるが如きも爾後の状況不明なり

三 第四飛行師團の状況

第四飛行師團は一月中旬以降主力を以てカガヤン河谷にありツゲガラオ及エチアゲ附近飛行場を使用し好機に投し重要なる地區の偵察或は指揮連絡又臺灣との重要物資、人員の輸送に任しありしが航空機の損耗と敵空襲の激化に伴ひ方面軍の命令に據り航空地上部隊等を以て臨時歩兵、輸送隊等を編成して各兵團に配屬し又逐次兵站的任務に移行し或は地上發備に任じ或は兵站の輸送に援助協力し地上作戰に寄與せり六月中旬米軍のバガベック以東に進出するや師團司令部は方面軍命令に基きサンチャゴ附近に在りてキヤンガンに轉進を準備中なりしが偶々オリオン峠方面に轉進中の第百三師團と協力

敵を拒止せしも利あらず逐次西北方に退避し幾多の困苦を冒して部隊を掌握しつつ六月中旬オスカリス北方に於てマガツト河を渡河し七月中旬マヨヤオ附近に到着し七月下旬第百五師團牟田部隊と協力し同地にありし米比軍の一部と交戦爾後ナトニンを經て九月上旬ボントツク附近に轉進し同地に於て停戦となれり
ツゲガラオ附近に在りし部隊の状況は明かならず
カガヤン河谷にありし兵站部隊及海軍部隊等の状況
兵站長の指揮下にカワヤン附近にありし藤澤臨時歩兵團司令部並同團長の指揮下に於てバガバツクエチアゲイカワヤン道及サンチャゴーオスカリスーカワヤン道に沿ふ地區に在りて軍需物資の收買輸送等に任じありし兵站諸部隊並にカワヤン西北方にありし一部の海軍部隊等は米軍の同方面侵入に伴ひ方面軍命令或は澳ねて命ぜられたる所に基き第百三師團長の指揮下に入り所在の部隊と協力し当面の米軍と戦闘したるが如きも一部の部隊の外状況明かならず

之等の兵站部隊は殆んど在呂宋の船舶、鐵道、航空及海軍部隊を臨時に兵站地區司令部或は輸送隊等に改編せるものにして固有の兵站は一部の各補給廠出張所自動車中隊等に過ぎざりき

第九節 獨立混成第六十一旅團の状況

旅團の任務及作戰準備に關しては第一篇第五章第一節既述の如くにしてバブヤン諸島の重要各島嶼に艦ね各一箇大隊を配置して之が警備に任ぜり

旅團は呂宋作戰の進展に伴ひ一九四五年六月臺灣軍の隸下に入らしめられ依然前任務を遂行中敵の上陸攻撃を受くること無く停戦するに至れり 停戦に關しては第十四方面軍司令官の指揮を受け九月下旬概ね其の行動を完了せり